

経営比較分析表（平成30年度決算）

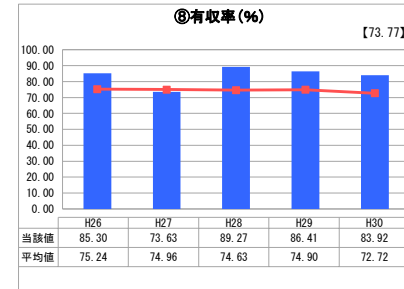
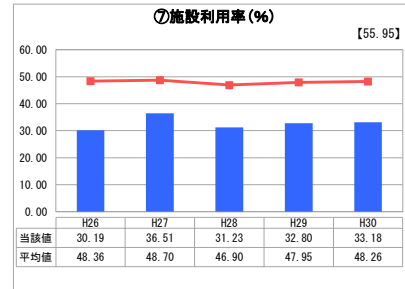
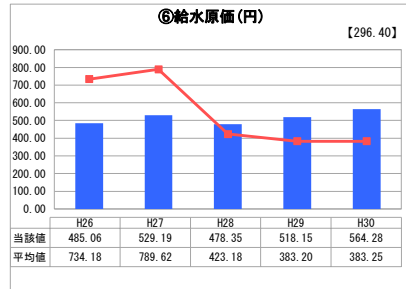
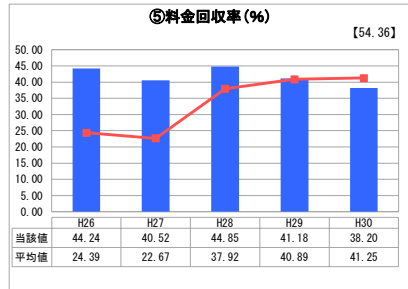
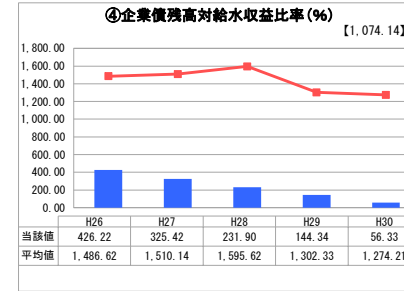
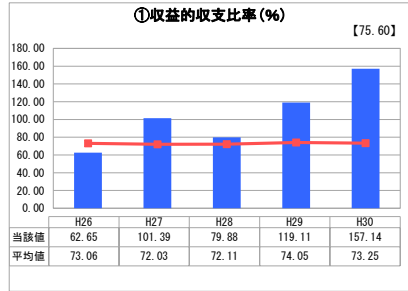
宮崎県 川南町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	該当数値なし	1.09	3,758	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
15,780	90.12	175.10
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
172	2.25	76.44

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益の収支比率
平成30年度は他会計繰入金が多かったため、100%を超えています。県内では高い料金設定となっていますが、給水人口の減少により安定した給水収入が見込めないため、他会計繰入金に依存している状況です。

④企業債残高対給水収益比率
平均値より低い状態になっています。建設改良費の財源を企業債に頼らずに行っているため、減少傾向にあります。

⑤料金回収率
平均値より低い状態であり、100%を大きく下回っています。他会計繰入金に依存している状況にあることから、費用効率の検討が必要となっています。

⑥給水原価
平均値よりもやや高い状況にあります。水道事業と同率の使用料設定で今後の老朽化に備え、健全経営に努めています。給水人口が減少傾向にあることから、水道事業との統合を進め、効率性を高めていく必要があります。

⑦施設利用率
給水人口が減少傾向のため、平均値を下回っています。効率性を配慮した施設規模の見直しが必要です。

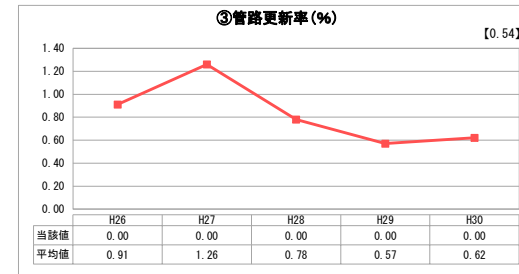
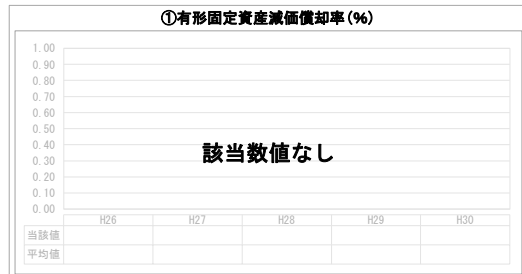
⑧有収率
平均よりも上回っています。今後もより高い有収率を保つ必要があります。

2. 老朽化の状況について

③管路更新率
近年は、管路更新の実施はありません。ポンプ等機械設備とともに計画的な更新が必要となっており、料金回収率が低く中で更新費用の財源確保が困難な状況です。

H7年度の供用開始から20年以上が経過し、耐用年数を超えた管路はありませんが、計装機器等に老朽化が見られます。しかし、事業自体が小規模であるため、料金値上げによる更新工費の確保は困難な状況です。

2. 老朽化の状況



全体総括

給水人口が減少傾向であるため、料金回収率の低さや施設利用率の低さに影響しています。今後の施設や管路の更新等を考慮すると、料金値上げや規模縮小の検討が必要と考えられます。しかし、今以上の料金値上げや規模縮小は困難な状況のため、令和2年度に、掛迫簡易水道事業及び赤石飲料水供給施設について、水道事業との統合を予定しています。